

## 令和2年度「知事と市町長の1対1対談」(尾鷲市) 概要

- 1 対談市町 尾鷲市 (加藤<sup>かとう</sup> 千速<sup>ちはや</sup> 尾鷲市長)
- 2 対談日時 令和2年7月30日(木) 10:30~11:30
- 3 対談場所 尾鷲商工会議所 3階大ホール1・2
- 4 対談項目1 おわせSEAモデル構想の実現について  
対談項目2 新型コロナウイルス感染症の影響に対する地域経済活性化に向けた支援について  
対談項目3 林業の活性化及び魚食普及に向けた取組支援について  
対談項目4 新型コロナウイルス感染症の第2波・第3波の対策に関する支援について  
対談項目5 尾鷲高等学校のプールの温水化に伴う尾鷲中学校水泳部のクラブ活動での使用について

### 5 対談概要

#### 対談項目1 おわせSEAモデル構想の実現について

(市長)

「おわせSEAモデル構想」については、平成30年1月に中部電力から尾鷲市に対し「設備の老朽化に加え、稼働率も低下している尾鷲三田火力発電所の広大な土地を活用し、エネルギー地産地消を中心とした新しい地域活性化モデルの検討を尾鷲市と地元経済界と共に推進していきたい。」との提案がありました。同年5月25日に尾鷲市と中部電力とで「尾鷲三田火力発電所用地の有効活用について、共存共栄の理念に基づき地域活性化に努める。」とし、令和28(2046)年3月31日までの2者協定を締結し、その後、地域産業のけん引者である尾鷲商工会議所を含めた3者に三重県、三重大学をオブザーバーとし平成30年8月24日に「おわせSEAモデル協議会」を発足させ、「おわせSEAモデル構想」の実現に向け取り組んでいるところです。

三重県においては、各部横断的な組織である「尾鷲三田火力発電所の跡地活用にかかる支援部会」を平成30年7月に知事の肝いりで設置して頂き、南部地域活性化局、雇用経済部の職員の事務局定例会等への出席をはじめ、令和2年度予算においては、南部地域活性化基金を活用したご支援、土砂確保など、多大なるご支援に対し深く感謝申し上げます。

しかしながら、63万4千平米の広大な(坪数で19万坪、甲子園球場にして13個分)跡地活用については、津波浸水域、大規模商圏からの距離などの企業誘致に対するハードルに加え、3者間の意見調整、インフラ整備に係る資金捻出など課題が山積していることも事実です。それらを打開するためには、国・県のバッ

クアッパも必要不可欠であると考えています。

跡地問題は、全国の自治体が今までも、今後も抱える問題であり、全国のモデルケースとなり得るものとして何としても実現させたいです。単に尾鷲市だけではなく、三重県南部、東紀州地域にとっても地域活性化の起爆剤にならないとと考えています。新型コロナの影響により、都市部から地方への回帰も想定されることから、民間企業誘致はもちろん、国・県の関係機関の移転動向に関する情報共有や誘致支援等も含め、今後もお支援をお願いしたいと思っています。

(知事)

この「おわせS E Aモデル構想」の中心となる尾鷲三田火力発電所跡地の活用は、尾鷲市が中心的な話であるものの、東紀州地域全体にとって重要な話であり、しっかり活用できればチャンスとなる話なので、県も当事者意識を持って一緒に取り組んでいかなければならない課題と認識しています。このため県では、部長級で構成する南部地域活性化推進本部（本部長：知事）の下に、課長級で構成する「尾鷲三田火力発電所の跡地活用にかかる支援部会」を設置し、全庁的な支援体制を構築しています。個々のプロジェクトについて、陸上養殖や木質バイオマスなど各担当部局でそれぞれ支援をさせていただいています。

南部地域活性化基金については、今まで行政同士連携した事業が対象であったのを見直して、令和2年4月からは行政と企業が連携して行う取組も対象となるよう変更しました。変更後の基金の第1号の中には、海ブドウ等の陸上養殖のマーケティング調査など「おわせS E Aモデル構想」の取組を対象とさせていただきました。

南部地域の支援の在り方も状況に応じてしっかり変えていくという形で、尾鷲市と情報交換しながらやってきました。それは、南部地域活性化基金の使い方について変えたほうが有難い、変えたらもっと自分達は使えるという、加藤市長をはじめ尾鷲市の皆さんが思いを伝えてくださったおかげです。

企業誘致に関して、令和元年に大阪で企業立地セミナーを開催した時も、加藤市長には、県内の首長の中で唯一お越しいただき、ご挨拶やトップセールスもしていただき本当にありがとうございました。企業誘致の動向については、これからもどんどん情報共有していきたいと思っています。今、具体的な案件を持っている訳ではないですが、例えば、イギリスではBBCの制作会社を地方へ移転させて、移転先の人口規模10万人位の自治体を活性化させたり、運転免許庁という機関を地方へ移転させて、移転先の自治体で数千人規模の雇用を生んだりした事例があります。私は全国知事会の地方創生対策本部長として、一極集中是正のための議論を大いにやっつけていこうと思っています。企業だけでなく、様々な公的機関とか民間企業の中でも公共に近いような所も視野に入れながら進めていきたい

です。情報収集もし、補助金など様々な対応を行っていきたいと思います。

大きいビジョンを尾鷲市や尾鷲商工会議所の皆さんと描きながら、最初のアイデア出しとか、最初の一步を進んで行くときは仮に荒唐無稽であったとしても、地域を良くしていくんだという情熱のもと皆で動いていけば何か見えてくるものがあるかもしれないので、私も職員も一緒に「おわせSEAモデル構想」の成功に向けて努力していきたいと考えています。

## 対談項目2 新型コロナウイルス感染症の影響に対する地域経済活性化に向けた支援について

(市長)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、全国規模で感染対策が実施され、尾鷲市においても、緊急事態宣言が発令されたこともあり、現在も経済活動そして市民生活に未曾有の影響を及ぼしております。

こうした中、県におかれましては、独自に雇用、金融、休業支援など多くの支援を実施し、県内の経済活動停滞の対策に取り組まれておられ、深く感謝申し上げます。

また、誘客面におきましても、国の臨時交付金を活用されて「当地域での自然を活かしたイベントに対する補助」の創設、「体験教育旅行に係る実施への補助」の創設といった、東紀州地域への誘客に繋がる取組を積極的に実施していただき、重ねて御礼申し上げる次第であります。

尾鷲市におきましても、コロナ禍の中、国の交付金を活用し、「プレミアム付商品券の発行」を5億4千万円、また、飲食業に元気を取り戻していただくための「プレミアム付食事券の発行」1億5千万円、といった事業について、尾鷲商工会議所をはじめ関係者とともに知恵と工夫を出し合い、経済活動のカンフル剤となるべく準備を進めているところであります。この事業について、私自身、8億円の経済効果を期待しているところであります。

6月19日においては、移動自粛が全面的に解除され、新型コロナウイルス感染症と向き合いながら、徐々にではありますが自粛ムードも多少和らぎ、従前の経済活動に戻ろうとしている気配が見えるわけですが、昨今の感染症の拡大で更に市民の不安が募り、まちの活気がまだまだであるというのが現状であります。このような中、県におかれましては、迅速に経済活性化の支援を行っていただいておりますが、今後においても、コロナ禍対策、そして経済活性化にむけた持続的な支援をお願い申し上げます。

(知事)

新型コロナウイルス感染症への対応では特に尾鷲の皆さんには、ゴールデンウィークの後、釣り、渡船業の皆さんなどに自主休業をしていただき、地域で感

染拡大しないよう自主的なご努力を大変していただいたことに改めて御礼申し上げます。自然体験等を活かした、たくさんの方が来てもらえるような補助事業など、この尾鷲の魅力全体が伝わって「また行こう」と思ってもらえるようになっていけたらと思っています。令和3年夏頃には、尾鷲北と尾鷲南のインターチェンジがつながります。こちらに来やすくなり、まちの魅力を作っていく本当に重要なポイントの時期だと思っています。そのチャンスを生かすためにも、令和2年に自然体験などで来ていただき、その経験で令和3年また来ようということにさせていただこうということです。

まずは、県内の皆さんに来ていただいて、その後感染症が落ち着いてきたら隣県に、その後全国の方にとというふうに広げていくことを前提にしています。誘客については3つ紹介します。1つは、自然体験等イベントを南部地域で行っていたことに対して、南部地域自然体験促進事業費補助金で支援をします。今回8件、7月29日に補助金の交付決定をしました。うち1件は尾鷲での磯釣りが入っていますので、それを是非活用していただいて自然体験イベントを広げていただけたらと思います。2つ目と3つ目は、修学旅行等への支援です。南部地域に修学旅行等に来ていただき、尾鷲で仮に泊まった場合は児童1人あたり4～5千円の補助に、尾鷲で日帰りの自然体験、林業体験や水産業など体験した場合は1人あたり1～2千円の補助になるという「南部地域体験教育旅行促進事業費補助金」の募集を7月1日から開始しました。結果、7月27日時点で、南部地域全体で30校1444人分の申請となっています。今後もさらに多くの申請が見込まれるので、尾鷲市を含めて南部地域に修学旅行等に来たいと思う全ての人を支援できるように、予算の増額を図りたいと考えています。それにより、尾鷲に泊まったり日帰り体験してもらったりする児童・生徒たちを増やして、この地域の交流・定着人口を増やしていきたいと思っています。

7月29日も県民の皆さんを対象とした県内の旅行について、「みえ旅プレミアム旅行券」6800枚分募集を開始したところ、ほぼ完売してしまったという状況です。それも引き続き増やしていきたいと思っています。児童・生徒たちが例えば修学旅行で県内に南部地域ではなくても行く場合は、対象とする制度を新たに作りたいと考えています。

あとは尾鷲市のいろんな良いものを、ECポータルサイトで売っていけるよう「オール三重！全力応援サイト『三重のお宝マーケット』」を開設しています。様々な販路開拓を尾鷲市のみなさんと一緒にやっていければと考えています。新型コロナウイルス感染症対策のため、非接触、非対面もあり、一方で密を回避するという状況にありますが、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

### 対談項目3 林業の活性化及び魚食普及に向けた取組支援について

(市長)

尾鷲市といえば、林業と漁業が中心ですが、まずは、林業の活性化については、「おわせSEAモデル協議会」のプロジェクト-Eで協議している木質バイオマス発電事業により、端材などの未利用材などに付加価値をつけていくことに関連させながら、併せて幹材の価値を高め、尾鷲林業全体に展開していくための仕組みづくりを現在検討しているところです。

しかしながら、木材価格は、半世紀以上かけて育てた山から木を伐りだしてくる費用が捻出できない状況で、切れば切るほど赤字となる山が多く、所有者の代が変わり手入れされないまま放置されてしまう山が増えてきているのが現状です。

そうした状況のなかで令和元年度、「おわせSEAモデル構想」における木質バイオマス発電事業検討をきっかけとして、雇用経済部からご紹介、ご仲介いただきました民間企業との本地域における林業振興策につきましては、現在、地域が一体となって取り組んでいけるよう研究会を早急に立ち上げようとしているところであり、研究会立ち上げの際には、県の参画をお願いしたいと考えております。

今後、技術・ノウハウを持った林業事業者とのマッチングの場作りなど、林業全体の活性化に繋がる働きかけをなお一層、県と市が一体となって推進できるようお願い申し上げます。

水産業につきまして、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症による都市部を中心とする消費地の需要激減の影響は甚大なものです。

県においては、いち早く魚類養殖への対策を講じていただき本当にありがとうございました。市としても市内外の量販店に対し、養殖マダイの販売強化を依頼したところご快諾頂き、売れ行きも好調と報告を受けております。また、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新たな消費喚起へのアプローチとして、地産地消が見直されていることを追い風にしながら、地域内消費を高めるための、旬の魚のPR動画の作成やSNSでの配信、市内外のスーパーマーケットや、都市部のレストラン等での放映などの魚食普及活動、また現在具体的に取り組んでいるのは、津市にあるスーパーマーケットチェーン店と連携しながら、鈴鹿大学短期大学部とコラボした「尾鷲の魚の乾杯メニュー」開発など、マーケットの開拓に取り組んでいるところです。新型コロナウイルス感染症の影響で、特に水産業界では需要の落ち込みが極めて激しく、手立てを講じてもまだまだ厳しく予断を許さない、先行きも不透明で大変な状況であり、県におかれましても、今後とも、学校給食への地域産食材の活用の継続や、魚食普及などに積極的に取り組んでいただいておりますが、今後更なるご支援を賜りたくよろしくお願い申

上げます。

(知事)

林業については、新しく立ち上げようとされている研究会、林業事業者とのマッチングで地域一体となって取り組んでいくための研究会について、その研究会が立ち上げられた際には、県としても積極的に参加をさせていただいて、今後の横展開に是非つなげられるようにと考えています。木材の場合は、その需要全体、構造材となるA材から燃料となるC材まで様々な需要を確保し拡大していくということと、特にA材などを中心に付加価値を上げていき、しっかり生産者の人たちにお金が入っていくようにしていく、この両方が必要であると考えています。木材の需要を生み出すということであれば、牡蠣の養殖筏向けの丸太の生産を、地域全体で取り組んでいただけるように、県の林業普及指導員が技術支援をさせていただき、供給体制の構築につながっているというような話もあります。少し新型コロナウイルス感染症の前の話ですが、中国向けや韓国向けに木材を輸出して頂くようなプロモーションの活動を支援させて頂いてきました。マーケットを拓げていくところのお手伝いを更に一緒にやっていきたいと考えています。

林業についてはマーケットの話以外についても、林業人材をしっかり育てていくことが重要ですので、令和元年度からスタートしている、みえ森林・林業アカデミーにおいて、人材の育成をして、林業で付加価値を高め、儲かっていけるような形に、人材の育成にも力を入れていきたいと考えています。

水産業について、市長自ら現場に行かれたり、トップセールスをして頂くことに改めて感謝を申し上げます。

例えば養殖マダイの関係では、「イオン」や「マックスバリュ」に既に手伝ってもらっているのですが、更に、「ぎゅーとら」や県内に店舗のあるスーパーマーケットに続々とお手伝いをしていただくことになっています。また、7月22日から「三重県へのセブンイレブン出店15周年」を記念した商品4つ(鯛の出汁のラーメンと、鯛めしのおにぎり、志摩のあおさを使ったおにぎり、伊勢茶のシュークリーム)が販売されていますが、うち2つには尾鷲から養殖マダイを提供してもらっているので、そういう形でのマーケットを拓げていくということにもしっかりやっていきたいと思えます。

学校給食については、学校給食に地域の食材を提供していくために、食材を買い取ったりするための費用として、6月の議会で約9億円の補正予算を計上して、例えば尾鷲市の水産物を県の子どもたちに食べてもらえるように、9月以降に学校給食で供給開始できるようマッチングを行っています。どこから食材を提供してもらい、どこの学校へ提供するという調整作業です。7月27日現在で、水産物については、尾鷲市を含む8市8町(県内29市町のうち16の市町)の学

校が、県内の水産物を給食に取り入れたいと言ってくれています。しっかりと普及され実現できるように、またこの事業については国の事業を活用しているのですが、今後、拡大していく際にも国の事業の活用や県で様々な対応していくことも検討していきたいと考えています。

水産の動向について7月30日の夕刻にも水産業界関係団体の皆さんと意見交換するのですが、新型コロナウイルス感染症も加えて大変な厳しい状況が続いていますので、しっかりと現場の皆さんと意思疎通しながら販路開拓を、それから水産の面もきっちり支援していくよう行っていきたいと考えています。

#### 対談項目4 新型コロナウイルス感染症の第2波・第3波の対策に関する支援について

(市長)

新型コロナウイルス感染症対策では、4月に県内での陽性患者が多発した時期、県内24床の感染症病床では対応ができず、一般病床約100床を確保されたところではありますが、尾鷲市でも1名の陽性患者が発生したため、市中感染を懸念し、万が一陽性患者が別の症状で尾鷲総合病院を受診し、院内の医療従事者に感染の恐れがある場合の対策として、独自に宿泊所を確保した経緯があります。また、7月22日に尾鷲市で2例目の陽性患者が発生しており、7月29日にはその家族も陽性が確認され、感染症対策を十分に行っていく必要があると痛感しているところです。そのためにも、設備、物資、人員を整える必要があり、国の第二次補正予算の成立により、厚生労働省から対策メニューが示されました。その中で、「PCR等の検査体制のさらなる強化」について、今後の経済活動を高めるためには、定期的に陽性・陰性のチェックを行い、市民が安心して日常生活を送れるようにすることが重要であります。

そのためには、現在のPCR法・LAMP法の検査や抗原検査においては、更なる速度と正確性が求められ、それらはメーカーの技術力において開発等の動きも見られます。そのような機器を利用し尾鷲総合病院においてもいわゆるPCR外来の設置も検討しておりますが、PCR外来に従事する医師や、検査を行う臨床検査技師の確保が必要となり、通常の診療に従事する必要もあるため、PCR外来に従事できる技術的支援やマンパワー支援も必要となってくるところです。県におかれましては、三重県医師会への協力要請や協定等により県規模で診療所等の医師の割り振りを行い、また、民間の検査機関と委託もしくは協定等により検査技師の派遣を保健所単位で行い、帰国者・接触者相談センターやPCR外来設置機関へのサポート体制の構築に向け、一層のご理解ご支援を賜りたいと考えています。

(知事)

新型コロナウイルス感染症を防止していくためには、検査を徹底する、検査を徹底できる体制が大切です。検査を多く行うことで感染している人を確実に把握し、感染者には入院していただくあるいは軽症者用の療養施設に入っただく等の取組を行います。感染している人の把握ができていないと、無症状の方もいらっしゃるしますので、知らず知らずのうちに感染が地域で拡大してしまう可能性があります。とにもかくにも検査を徹底するということが大切です。検査を徹底するためには、感染者が出た場合に入院する病床の確保も重要です。7月31日に、医療関係者による専門家会議を開催し、今後のピークや感染者人数、そのために必要な病床数、軽症者用の療養施設の必要数などを発表させていただく予定です。いま170を超える病床を確保していますが、それよりもかなり多い数の病床を確保する計画になっています。そのことについて、医療機関の皆さんとも一定調整させていただいています。

三重県では、7月に検査機器を増設しました。感染が落ち着いた5月にも検査のための人員を増強しました。その後検査体制を日々、増強しています。7月29日だと1日あたり171件、検査をしているという状況です。検査数における陽性確認者数を陽性率といいます。三重県は7月29日で陽性率は約4パーセントになっています。PCR検査については、帰国者・接触者外来の医療機関で実施していますが、検査を実施するための医師や看護師が必要です。そもそも医師や看護師は、ほかの医療提供も行っているため、病院としての負担が大きくなっています。したがって、もっとPCR検査を専門に行う機関があれば、病院の負担が減ります。加えて、検査を行う際には距離が近いので、フェイスシールドや防護服を着てするのですが、院内での感染の可能性もあります。やはり専門で検査を行う機関があれば、病院としての感染拡大の可能性が減ります。検体採取を専門で行う機関があれば、検査のスピードも検体採取のスピードも速くなっていくので、多く検査ができます。そこで、検体採取を専門で実施する機関を「PCR外来」と言います。それを市町や郡市医師会の皆さんに連携させていただいて、県から委託する形で県内に10か所程度設置予定です。いま5か所つくっています。尾鷲地域にも1か所設置したいと思っています。設置には、地域の実情や医師会の皆さんのご意見をしっかりと聴かないといけないと思っていますので、紀北医師会の皆さんと三重県医師会の皆さんと連携をしながら丁寧に協議を進めて実現をどのように図れば良いのか、先ほど市長からも技術者、検査機器、人材、ルール、保健所、それら仰っていただきましたので、尾鷲市と紀北医師会と三重県医師会と県と一緒に丁寧に協議を進めながら、なるべく早く「PCR外来」が出来るように、この尾鷲地域にもできるようにしっかりと検討していきたいと思っています。それが、尾鷲の皆さんの安心に繋がると考えていますので、なるべ

く早く設置していくということで考えております。

## 対談項目 5 尾鷲高等学校のプールの温水化に伴う尾鷲中学校水泳部の クラブ活動での使用について

(市長)

尾鷲中学校のプールは、建設から約 50 年が経過し、老朽化等が非常に著しいことから、大規模改修や温水化への要望を多くの市民の皆さんから頂いているところではあるものの、尾鷲市の財政状況から現状では改修・温水化は極めて困難な状況にあります。

尾鷲中学校水泳部は、シーズン中（夏季）は、自校プールで練習を行っていますが、オフシーズン（夏季以外）はこれまで、市内の民間運営の温水プールを利用していました。しかし、このプールが数年前に閉鎖となったことから、現在では隣接町での中学校温水プールに公共交通機関を利用しながら、移動し、練習を行っている現状です。隣接町の中学校温水プールには、尾鷲高校の生徒も練習を行っており、中学生、高校生共に競技力が向上し、各種大会においても好成績を上げています。しかしながら、3校の水泳部員が同時に練習を行うには、手狭で練習環境としては充分ではありません。この度、尾鷲高校プールの温水化が決定されたことから、尾鷲中学校の水泳部が練習で利用させていただければ、伝統と実績のある尾鷲高校水泳部との合同練習も可能となり、中学生部員の競技力の向上が見込まれるだけでなく、中学・高校の連続した一貫性のある活動にも繋がります。さらには、尾鷲中学校から尾鷲高校への進学にも必ず繋がることを期待できると思っています。

現在、尾鷲中学校水泳部の温水プール利用に向けた協議を県で前向きに進めていただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。本件については是非実現していただきますようよろしくお願いいたします。

(知事)

尾鷲中学校の水泳部に、尾鷲高校のプールを利用できるようにしたいと思っています。中学の子どもたちと高校の先輩たちが切磋琢磨し練習していただきたら良いし、先ほど市長がおっしゃったように尾鷲高校への進学の可能性が高まるということもあると思います。そういう環境を整えば、ほかの地域からも「尾鷲高校へ進学して水泳をやってみよう」と思う子どもたちが増える可能性もあります。

プールの改修について尾鷲地域をあげて、ご要望をいただきました。また完成したら年間を通して練習が出来る温水プールが出来上がります。令和3年2月末に完成予定で3月上旬から運用開始できるようにしたいと考えています。

いよいよ令和3年は「三重とこわか国体・三重とこわか大会」がありますので、

尾鷲地域で、「三重とわか国体・三重とわか大会」も「三重とわか国体・三重とわか大会」後も、三重県内の競技力を、水泳において牽引していただく  
そういった人材が多数輩出されるよう、地域を挙げて、そういうアスリートの応援をしていただけるようお願いします。